

Campus

大 学

Topics

キャンパス・トピックス

第3回オープンキャンパスに1,508人が来場

秋晴れの爽やかな10月16日、第3回オープンキャンパスを開催しました。愛知淑徳大学を希望する受験生に、各キャンパスの雰囲気や施設などを実際に体験していただくため6、7月に引き続き、本年度最後の実施となりました。今回は、両キャンパス合わせて1,508人の来場者を迎えることができました。

本学に関心を抱く来場者はさまざま、高校1年の時から来ているという入試本番を迎えている3年生から、両親と来校された1、2年生、学部・学科は異なれど同じ本学をめざしている友人同士など、たくさんの方が来場されました。

全体説明会は3回行ない、高校生や保護者が知りたいと思う情報をわかりやすく説明。入試を目前にし、会場の350席はほぼ満席になるほどの大盛況ぶりでした。他にも、入試や学科の学びなど質問内容に応じて教職員と面談ができる相談コーナー、学部が実施する体験コーナー、在学生が学内を案内するキャンパスツアーなどにも多くの参加者が集まっていました。

さらに、第2回オープンキャンパスで実施した公募制推薦入試『基礎学力試験対策講座(国語・英語)』の模様をDVD上映しました。公募制推薦入試『小論文対策講座』ではユーモア溢れる講義に惹き込まれながらも、有益な内容を聞き逃すまいとひたむきな様子が窺えました。

見学や体験を終えた高校生は、大学への期待と意欲を膨らませ、入学後の自分を重ねているようでした。また、保護者からも高い評価が多く寄せられました。



公募制推薦入試「小論文対策講座」(星が丘キャンパス)



学科相談(長久手キャンパス)



入試相談(長久手キャンパス)

第3回 大村知事と語る会「大学生と語るまちづくり」に出席

リニモ沿線地域の大学に通う、8人の大学生が集結。大村知事と「にぎわいつくり」について意見を交わしました。

2011年11月19日、リニモを活用した新たな地域づくりを目的に、第3回大村知事と語る会「大学生と語るまちづくり」リニモ沿線地域の「にぎわいつくり」が開催。リニモ沿線地域に立地している大学に通う学生8人が集まり、大村知事との懇談会をはじめリニモの乗車体験、長久手町の観光PR隊による演舞鑑賞など、さまざまなプログラムを体験しました。懇談会では、リニモの運賃見直し、地域特性を活かしたコンプレキシヨナルバムの制作、リニモ沿線地域に立地する大学での公開講座など、それぞれが日常生活の中で気づいた地域の魅力やにぎわいつくりに必要なアイデアを提案。大村知事と共に熱い議論を交わし、地域の「にぎわいつくり」に向け、大きな一歩を踏み出しました。

本学からは、文化創造学部文化創造学科4年の柴田悠希さんが出席。「大村知事や個性豊かな学生の皆さんとの懇談会は、自らの見聞を広げ、新たなひらめきを生むとても良い機会になりました」と自らの成長を語りました。



積極的に意見を述べる柴田さん

バドミントン部「創立30周年記念イベント」を開催

今年で創立30周年を迎えるバドミントン部が、11月23日(水祝)に記念イベントを開催しました。バドミントン部の卒業生35人と在学生25人が参加し、「30周年記念大会」と題して試合やさまざまなレクリエーションを通じて親睦を深めました。試合に熱中する在学生や卒業生の歓声、思い出話に花を咲かせる卒業生の笑い声が響き渡り、会場となった長久手キャンパスの体育館はバドミントンの節目を共に祝うあたたかな雰囲気に満ちていました。

バドミントン部の立ち上げ当初から部員たちを熱心に指導し、支え続けてきた顧問の松田秀子先生は、「同好会時代も含めると33周年になります。今日は30周年振りに会って第一期生など懐かしい顔ぶれが揃い、賑やかな時間を過ごしました。伝統と実績を積み上げてきた先輩方と交流し、在学生たちも尊い絆を感じたことでしょう。その絆を次の代へもつなげてほしいと期待しています。」と語り、優しい笑顔で卒業生、在学生を見守っていました。



Campus

大 学

Topics

キャンパス・トピックス

studio-L展 愛知巡回展

10月18日～11月4日の期間、都市環境デザインコース・ミニギャラリーにて「studio-L展」愛知巡回展を開催しました。株式会社studio-Lは、コミュニティデザイナー山崎亮氏率いるデザイン事務所です。彼らのデザインスタンスは「デザインの力で人と人を結ぶ」ことにあります。人口減少や少子高齢化など複雑な問題を抱える町の再生のため、あるいは、客足が伸び悩む商店街や百貨店、新しい公園づくりのためと、様々なフィールドにデザイン手法によるてこ入れを行ない、同時に、そこに住まう人や運営する人たちの自発的で継続的な活動を促すことに成功しています。彼らはこれを「コミュニティデザイン」と呼んでいます。今回の展示では、全国各地で実施されたまちづくりや公園運営のプ



展示会場にて



講演会の様子

瀬戸プロジェクトとProject1000の建築家たち

都市環境デザインコース・ミニギャラリーでは、9月6日～10月16日の期間、「瀬戸プロジェクトとProject1000の建築家たち『建築家による「売り建て」住宅と近作』展」と題した建築の企画展を開催しました。今回のテーマは、住宅づくりにおける「協働」のしくみ。展示にご協力いただいた「アトリエ天工人」「AUAU建築研究所」「D・i・G Architects」の3組の建築家は、普段の各々の設計業務以外に、「Project1000」で活動をとともにしています。「Project1000」とは、阪神淡路大震災の復興を機に立ち上げられた日本全国の建築家と施工会社のネットワークのことで、限られた時間と予算の中でも適正で上質な住宅提供を考えるしくみです。今回の展示では、瀬戸市内の6軒の戸建住宅群「瀬戸プロジェクト」の詳細図面と模型、東日本



展示会場にて



講演会の様子

大震災での早急な住宅提供を目的としたトレーラーハウス「モバイル・すまいるプロジェクト」を中心に、各建築家の建築作品のパネルと模型を盛りだくさんに展示しました。
また、最終日10月16日には、オープンキャンパスの特別企画として講演会「建築家と住宅を考える」を開催しました。講師には山下保博氏、鶴飼昭年氏、吉村昭範氏・真基氏をお招きし、建築家の社会的役割についてお話しいただきました。

メディアプロデュース学部都市環境デザインコースが学内ギャラリーで展覧会

インテリアデザイナー鳥居佳則展覧会

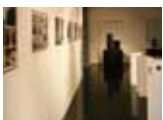
12月16日の期間、インテリアデザイナー鳥居佳則氏の展覧会「空気感と人柄」を開催しました。鳥居氏は東海圏が誇るインテリアデザイナーの一人で、鳥居氏主宰の「鳥居デザイン事務所」は名古屋の商業施設を数多く手掛けています。飲食店、物販店、ブライダル施設、美容サロン、クリニックなど、多くの仕事をパネルと映像で紹介したくとも、照明器具やオブジェの実物も展示いただきました。
また、最終日12月16日には、鳥居氏



講演会チラシ

都市環境デザインコース・ミニギャラリーでは、11月29日～

を講師に招いた講演会「空気感と人柄」を、17日にはインテリア見学会を実施しました。名駅に位置する創作和食店は広いフロアにいくつものテーマ空間があり、少人数向けの個室から大宴会場まで、「竹」をモチーフにした間仕切りやアート作品、鏡を用いた奥行き操作などの工夫に満ちています。また、屋上にウエディングチャペルのあるコンセプトダイニングはビル丸ごとがパーティ空間で、竹・金属・ガラス・アクリルなどの素材つかいや照明術など空間演出に関わる多くのテクニックを学ぶことができました。



展示会場

「高橋敏郎研究室 あかり展2011」学生の入賞作品など力作が並び

11月9日から24日まで、長久手キャンパス8号棟5階のミニギャラリーで、メディアプロデュース学部都市環境デザインコースの高橋敏郎研究室「あかり展2011」が開催されました。展示された作品は、今春の「ワロン50s」新しい可能性「コンベ」の入選作3点、10月の「美濃和紙あかりアート展」入選作1点、3年生の応募作6作品でクオリティが高く、力作ぞろいで見応えがありました。
ワロン50sコンベでは応募総数247点の中から照明部門に2点が入選、1点が第1位優秀賞に輝いたもので、どちらもLED基盤を用い、LEDの光が拡散しない弱点を克服しようとするデザインは審査員からも大きく評価されました。新しい可能性部門にも1点が入選しました。「美濃和紙あかりアート展」では、プロも集うコンクールに挑戦するため、春から美濃に足を運び、和紙の製法や提灯の張り方などを研究。手すき和紙の実習も体験。夏休み前には実物大模型も制作し、本展作品に



ワロンコンベ優秀賞作品



美濃和紙コンベ入賞作品

ワロン50sコンベでは応募総数247点の中から照明部門に2点が入選、1点が第1位優秀賞に輝いたもので、どちらもLED基盤を用い、LEDの光が拡散しない弱点を克服しようとするデザインは審査員からも大きく評価されました。新しい可能性部門にも1点が入選しました。「美濃和紙あかりアート展」では、プロも集うコンクールに挑戦するため、春から美濃に足を運び、和紙の製法や提灯の張り方などを研究。手すき和紙の実習も体験。夏休み前には実物大模型も制作し、本展作品に

コンベ結果の影響が学外からデザイナーの見学者も多数あり、新設メディアプロデュース学部の新しい一面を感じさせる展覧会でした。